

## &lt; 運営推進会議における評価\_様式例 &gt; ※公表用

## 【事業所概要】

法人名	医療法人鳥伝白川会	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護ゴン
所在地	(〒906-0006) 沖縄県宮古島市平良字西仲宗根 1496-7		

## 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・主治医と看護小規模多機能居宅介護事業所（看多機ゴン）の密接な連携の下、医療行為も含めた多様なサービスを 24 時間 365 日利用することができる。\*がん末期の看取り期・病状不安定期における在宅生活の継続支援、家族へのレスパイトケア、相談対応による不安の軽減、退院後の在宅療養生活へのスムーズな移行支援
- ・看護小規模多機能居宅介護事業所の介護支援専門員が「通い」「泊り」「訪問（看護・介護）」のサービスを一元的に管理するため、利用者や家族の状態に即応できるサービスを組み合わせることができる。

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2018 年 12 月 26 日	従業者等自己評価 実施人数	( 13 ) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

## 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2019 年 3 月 14 日	出席人数（合計）	( 6 ) 人	※自事業所職員を含む
出席者（内訳）	<input type="checkbox"/> 自事業所職員（ 3 人） <input type="checkbox"/> 市町村職員（ 1 人） <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員（ 1 人） <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者（ 0 人） <input type="checkbox"/> 利用者（ 0 人） <input type="checkbox"/> 利用者の家族（ 1 人） <input type="checkbox"/> 知見を有する者（ 0 人） <input type="checkbox"/> その他（ 0 人）			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	①防災、感染マニュアルを見直し、訓練や勉強会の実施で実際の場面に活かせるようにしたい。 ②新人の育成計画は継続し、ミーティングの中で各委員の担当者より進捗状況の報告や勉強会の開催、マニュアル作成を行う。ミーティング不参加者は資料に確認のサインを徹底する。	①火災を想定した対策と避難訓練と機器点検を実施し消防、保険者へ報告しています。感染に関しても喀痰吸引委員会を設置し、内部での勉強会を開催しています。 ②全体ミーティングの中で各委員より報告、内部での勉強会も実施しています。	①防災訓練も継続して行っており、委員会の設置と定期的な話し合いで安全にケアが行えています。 ②委員からの報告や検討会、その後の評価を行う事でケア方法の改善や再発予防に繋がっています。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	①ミーティングの場で個別支援計画を担当スタッフとともに評価を行い、介護計画を見直す。 ②個人ファイルを作成し、各職種より情報をファイリングする。	①ミーティングの場で各担当より利用者個々の目標、ケアの実施、評価を行っています。 ②情報、プラン変更などの際にはファイリングをしています。	①目標を持ったケアと日々の記録も詳細になり利用者の様子が把握しやすくなっています。 ②新しい情報を更新する事で、緊急時などもスムーズな対応に繋がっています。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	①地域老人クラブに参加し一角で健康相談や介護保険に関する悩み相談。 ②宮古病院主催の在宅情報支援会議へ参加し、多機関への情報発信。	①実施できていないので今後の課題として取り組んでいきたい。 ②左記会議へ参加、看多機、ステーションともパンフレットの配布や利用方法について説明しています。	①できる部分から始めていきたい。 ②今後も参加を継続し連携を取りながらサービス提供していきたい。
	3. 誰でも安心	①喀痰吸引修了者に対する育成計画(安	①委員会を設置し定期的に評価や勉強会	①今後も継続し研修の参加、委員会の開

	<p>して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)</p>	<p>全、感染、実施内容、報告、記録物)の整理。          ②施設行事の際は地域住民へ参加の声かけ、地域行事への参加。地域包括ケアシステムについての勉強会を行い、その後どういった取組みができるのかを検討していきたい。</p>	<p>を実施しています。          ②施設行事への参加を声かけや自治会への協力を頂いています。地域包括ケアシステムに関する勉強会は実施できていません。</p>	<p>催で安全な利用へ繋げたい。          ②今後も施設行事への参加の声かけや添道地区の敬老会やお正月へ参加していきたい。勉強会については要調整。</p>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>		<p>①日々のカンファを活かし問題点、目標を明確にし取り組む。          ②家族会年3回以上を予定し、ご家族や利用者の意向の確認や不安や負担の軽減に繋げていきたい。</p>	<p>①月1回のミーティングと担当者会議を行い目標を確認しています。          ②今年度は前期後期で2度、家族への声かけで家族会を開催し、介護での困りごとや意見交換の場を設けています。</p>	<p>①今後も継続していく。個別でのケアも実施、評価しながら職員間で共有したい。          ②家族も含めた勉強会を開催し、利用者家族の意向を踏まえながら、介護力の向上と負担の軽減に繋がったと思います。</p>

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		<p>①防災訓練も継続して行っており、委員会の設置と定期的な話し合いで安全にケアが行えています。</p> <p>②委員からの報告や検討会、その後の評価を行う事でケア方法の改善や再発予防に繋がっています。</p>	<p>①運営推進会議の議事録に職員確認欄を設けてファイリングし、全体でのミーティングで運営推進会議での意見、改善案や要望、助言等を話し合い、サービスの提供に反映できるような体制を整える。</p>
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<p>①目標を持ったケアと日々の記録も詳細になり利用者の様子が把握しやすくなっています。</p> <p>②新しい情報を更新する事で、緊急時などもスムーズな対応に繋がっています。</p>	<p>①申し送りに記載した、利用者の状態変化などによる計画目標やケア内容の変更に関しては、分からないや間違いがないように職員確認欄へのサインを徹底する。</p>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<p>①できる部分から始めていきたい。</p> <p>②今後も参加を継続し連携を取りながらサービス提供していきたい。</p>	<p>①退院、退所前のカンファレンスは可能な限り開催してもらい参加し病状や想いの把握に努め、宮古病院主催の在宅支援会議へ定期参加し多機関への情報発信も行っていく。</p>
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	<p>①今後も継続し研修の参加、委員会の開催で安全な利用へ繋がりたい。</p> <p>②今後も施設行事への参加の声かけや添道地区の敬老会やお正月へ参加していきたい。勉強会については要調整。</p>	<p>①誰でも観覧できるよう運営推進会議を掲示し、地域包括ケアシステムについての勉強会や感染症も含めた医療的な勉強会を行い、施設としての役割や地域との取組みを深めていきたい。</p>
III. 結果評価 (評価項目 42～44)		<p>①今後も継続していく。個別でのケアも実施、評価しながら職員間で共有したい。</p> <p>②家族も含めた勉強会を開催し、利用者家族の意向を踏まえながら、介護力の向上と負担の軽減に繋がったと思います。</p>	<p>①日々のケアと月1回のミーティングを活かし評価を行いながら、問題点、目標を明確にし取り組む。</p> <p>②家族会年3回以上を予定し、ご家族や利用者さんの意向の確認や不安や負担の軽減に繋がっていききたい。</p>

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価]

号 番	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における	評価の視点・
-----	------	---------	------------	--------

		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない	意見等	評価にあたっての補足
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			⑤の「地域包括ケアへの貢献」の部分ではどうなのか？ →地域行事の他に、1人暮らしの利用者さんの例として、近隣の住民に協力を依頼した事例があった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</li> <li>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
<b>(2) 人材の育成</b>							
① 専門技術の向上のための取組							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> <li>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</li> <li>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・研修計画があり、外内部研修を実施している。月のミーティングや業務マニュアルが作成されており、新人に関しても育成計画を作成しケアの統一を図っている。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・適時、外部研修へ参加し研修報告で内部での勉強会や情報共有が行われ、技術や知識の向上に努めている。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・朝礼、終礼、申し送りノートの活用や各職種ごとにミーティングを実施し、その後、全体でのミーティングでの情報共有がなされている。					
<b>(3) 組織体制の構築</b>							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよそ でき てい る	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている			○			✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・運営推進会議で得られた情報は必要に応じて申し送りしているが、全てを記録などで把握できるようにしたい。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	○					✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・就業規則があり、有休休暇も使えており、その他、産休や育児休暇、怪我や病気の際など労災や休暇も使える環境があります。					
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	○					✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・毎日の朝礼、終礼を実施して申し送りしている。不参加の職員も申し送り簿にて確認できるようになっている。					
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	○					<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	○					<p>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</p>
<b>II サービス提供等の評価</b>							
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</li> <li>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・訪問での自宅の様子や、必要があれば家族と連絡を取り情報収集している。					
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・各自、担当を持ちアセスメントを行い、必要な目標を決め、共有できている。					
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考え		○				✓ 「家族等の考えを含めた計画の

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	を把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている						作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</li> </ul>
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえ		○				✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	た計画が作成されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・診察への同行など病状の把握に努め、各職種で情報共有し、計画や目標に反映されている。					評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○			利用の際は連絡簿に連絡事項を記載しているが伝わらない事が多いので、申し送りを徹底する事は必要だと感じています。	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・上記③-15 と同じ。状態変化や介護状況の変化に迅速な対応、対策ができています。  ・ <u>申し送り簿を利用する事もあるが、確認できていないなど、不十分な場合がある。</u>					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利		○				✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	<p>利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している</p>	<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>・各職種での訪問で利用者と家族の介護状況を把握し、状況に合わせて通い、泊まりを利用されています。</p>					<p>な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	<p>○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている</p>	○					<p>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>
<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	<p>○ 介護職と看護職のそれぞれ</p>	○					<p>✓ 「介護職と看護職の専門性を活</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	の専門性を最大限に活かし ながら、柔軟な役割分担が行 われている						かした役割分担」について、充足 度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される 看護小規模多機能型居宅介護で は、効果的・効率的なサービス提 供のために、各々の専門性を活か した役割分担や、業務の状況等に 応じた柔軟な役割分担を行うこ とが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介 護職と看護職が互いに情報 を共有し対応策を検討する など、両職種間の連携が行わ れている	○					✓ 「介護職と看護職の情報共有お よび対応策の検討」について、充 足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、 疾病予防・病状の予後予測・ 心身の機能の維持回復など の観点から、情報提供や提案 等を行っている		○				✓ 「看護職の専門性を活かした、介 護職への情報提供や提案等」につ いて、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、 看護職の専門性を活かした役割 の1つとして期待されます
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴	○					✓ 「利用者等の理解」について、充

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている						足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・サービス開始時や変更時、訪問時に計画作成者や各担当者より説明がなされている。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○					✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・上記①-22 と同じ。ケアマネを中心に行っており、各利用者に合った言葉掛けや接し方を行い、継続していく。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・その都度、訪問時に説明を行うなど、継続的に実施できている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）	○					✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・各職種で状態の把握に努め、必要なサービスの変更や提供ができています。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○				✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○				✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</li> </ul>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟での退院前カンファレンスに参加し、情報提供を受けながら、必要なサービスを調整し在宅への移行ができています。</li> <li>・<u>利用者の想いと方針の調整が難しい事があるので、対応方針の確認は定期的に行っていく。</u></li> </ul>					
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</li> <li>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</li> </ul>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主治医や家族、施設内の各職種でも話し合いを持っている。</li> </ul>					
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含め	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価しま</li> </ul>



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	て、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・医師、看護師が365日24時間待機しており、急変時も同法人診療所や基幹病院での対応ができる体制ができている。					す
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○				✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている			○			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・会議の内容はファイルされているが、職員以外が観覧できるようにはなっていない。</p>					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</li> <li>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</li> <li>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</li> </ul>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・新聞を作成し玄関へ掲示し、行事の際は地域へのチラシ配布を行っている。 また、介護の日や敬老の日に新聞広告を出している。</p>					
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	<p>護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している</p>						<p>併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</p> <p>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p>
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	<p>○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている</p>		○				<p>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</p> <p>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p>
36	<p>○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れること</p>				○		<p>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	ができる体制が整っており、積極的に受け入れている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ <u>医師、看護師が365日24時間対応できる体制はあるが、受入の実績がない為、受入の際は勉強会や停電時の対応など検討が必要。</u>				在宅でも人工呼吸器の方もいらっしゃるのでは、受入ができるようになればよいですね。 やはり、災害の際でも使用できるような施設設備としての停電時のバックアップは必要不可欠なので、法人として検討してほしい。	✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○				✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が			○		現在、地域包括ケアシステムは	✓ 「内容等の理解」について、その

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している					<p>注目されており、地域包括支援センターでも研修案内は多いので、ぜひ地域密着型施設の職員には研修をうけてもらい施設としての役割についても学んでほしい。</p> <p>地域行事以外にも施設内でケアを終わらせない(地域の協力)などの取組みも大切です。</p>	<p>充足度を評価します</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</p>
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○				<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・集合住宅からの受入はなく、離島も含め、宮古全域に対してサービスを提供している。</p>	<p>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</p> <p>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</p>
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域関係者に対し、必要に応じ		○			<p>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価し</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	て課題提起や改善策の提案 等が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・家族へのケアの助言や指導、家族会を開催し、介護者も含めた勉強会なども開催している。					ます ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや		○			✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	向上のための具体的な取組 等が行われている	<p>・上記③-40 と同じ。また、近所の方とコミュニケーションをとる事により、自治会の方や老人クラブの方が施設へ訪問し、利用者さんや職員とお話をしたり、季節のものや地域性のあるものなど差し入れて頂いたりする。</p>					<p>取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・リハビリを含めた部分では達成できていると思う、利用者の状態で維持継続的な目標も多いが達成できていると思う。</p>		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・家族からの相などにも適宜対応できており、サービスの調整やケアに必要な助言や指導を行っている。</p>		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します



番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・ 医療機関と連携できており、サービス導入前や開始後のカンファレンスや適宜、訪問での対応をとるなど安心して見取りができていると思う。</p>		<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>